# Press Release

2010 年 3 月 11 日

報道関係各位

株式会社リビングくらしＨＯＷ研究所

～ ＜春のお彼岸＞ミセスの「お墓とお墓参り」意識アンケート ～

## お墓は母系家族指向！？
## 一緒のお墓に入りたい相手は夫・子供・自分の親

**◆自分のお墓「まだない」6割**
**◆自分のお墓を考えるのは「親が亡くなったとき」「夫婦や家族で話題になったとき」**
**◆自分の葬儀は、どちらかといえば「やらなくてもいい」37.9%。親しい人に見送られたい**

主婦を対象としたフリーペーパー「リビング新聞」を発行する株式会社サンケイリビング新聞社のグループ企業である「リビングくらしＨＯＷ研究所」（本社：東京都千代田区、代表者：菊野 善衛）は、ミセスを主なユーザーとするウェブサイト「えるこみ」で、ミセスのお墓とお墓参りの意識を探るアンケート調査を実施。世代間で微妙に変化する「お墓とお墓参りに対する気持ち」をまとめました。

◆ もしもの時･･･自分の入るお墓が「まだない」ミセスが６割

もしもの場合に、自分の入るお墓が「決まっていない」「わからない」と回答した人は、合わせて 61.8%。ミセスの６割は、自分の入るお墓がまだ決まっていない。決まっている人の中では、「夫の実家の墓」に入るというミセスが 66.7%で圧倒的多数。

◆ 「夫」と一緒のお墓に入りたい人は 67.6%。夫の親族とはできれば入りたくない？

ミセスが一緒のお墓に入りたいと思っている相手は、「夫」が 67.6%で第１位。次いで「自分の子供」42.2%、「自分の親」31.4%。できれば一緒のお墓に入りたくないという相手は「特にいない」というミセスが約６割。しかし、残りの約４割のミセスのなかには、「夫の親」「夫の兄弟姉妹」「夫の先祖」とは、できれば一緒に入りたくないと考える人がそれぞれ 25%前後（複数回答）。

◆ お墓参りに行くのは･･･「お盆」63.0%、「お彼岸」は世代間で差が大

お墓参りによく行く時期を聞いたところ、「お盆」を挙げた人が 63.0%。次いで「お彼岸（春）」48.5%、「お彼岸（秋）」44.7%。年代別でみると「お盆」や「正月」にお墓参りに行く割合はあまり差がみられないが、「お彼岸（春・秋）」では 50 代では 5～6 割に対して、20 代では２割台に激減。

◆ 自身の葬儀は「やらなくてもいい」37.9%、遺言を「書いておきたい」59.2%

ミセスの自分自身の葬儀についての意向は、約４割が「やらなくてもいい」と回答。「葬儀はやるべき」と思う人も、自身の戒名については 58.9%が「いらない」。また、「遺言」については、葬儀への意向や年代に関係なく、約６割が「書いておきたい」と回答。

＊ 当リリースの数値は、小数点二位以下を四捨五入で表記しています。
＊ 当社のデータは、http://www.kurashihow.co.jp/にも掲出しています。

【データに関するお問い合わせ先】
株式会社リビングくらしＨＯＷ研究所
くらしＨＯＷ研究室　藤田／近藤
TEL:03-5216-9420／FAX:03-5216-9430
info@kurashihow.co.jp

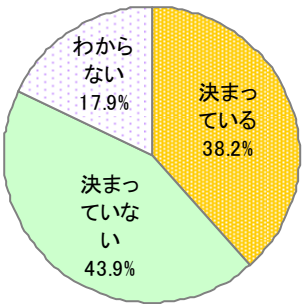
# Press Release

## ◆ もしもの時…自分が入るお墓は「決まっている」38.2%
## ミセスの６割が、自分が入るお墓は「まだない」(グラフ①・②)

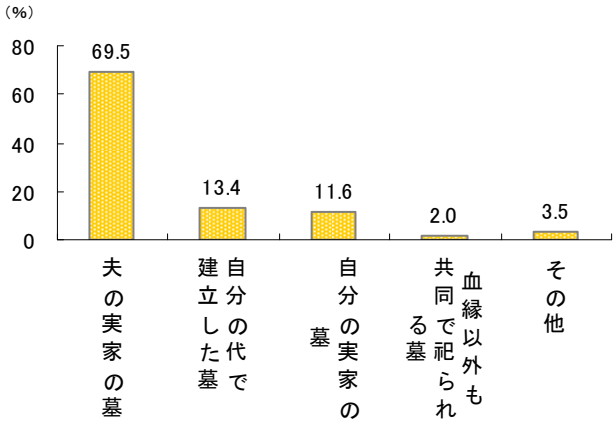
もしものとき･･･自分が入るお墓が「決まっている」というミセスは 38.2%と、2.6 人に１人。反対に「決まっていない」43.9%、「わからない」17.9%。合計で 61.8%と、半数以上が自分が入るお墓は「まだない」という状態。

「決まっている」という人のお墓は、「夫の実家の墓」が 66.7%でトップ。次いで「自分の代で建立した墓」13.5%、「自分の実家の墓」11.9%。「夫の実家の墓」は 20～40 代で７割台、50 代・60 代以上では５割台に。反対に「自分の代で建立した墓」は 40 代以下では１割に満たないが、50 代では 17.6%、60 代以上では 30.5%と、50 代以上での建立が目立つ。

**グラフ① 自分が入るお墓は?**
(n=1343)




**グラフ② 「決まっている」人、どんなお墓？**(n=509)

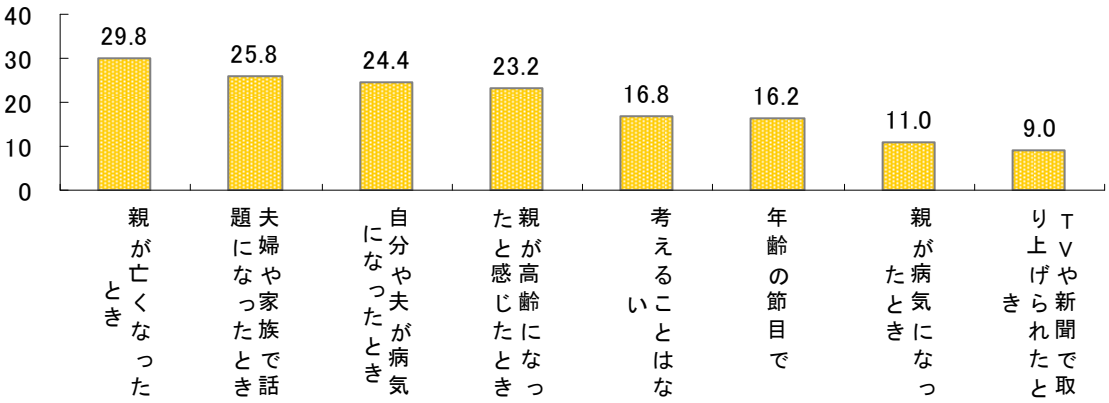



## ◆ 自分のお墓について考えるのは
## 「親がなくなったとき」「夫婦や家族で話題になったとき」(グラフ③)

“自分のお墓について考えるのは、どんなタイミングか”を聞くと、「親が亡くなったとき」が 29.8%。次いで「夫婦や家族で話題になったとき」25.8%、「自分や夫が病気になったとき」24.4%、「親が高齢になったと感じたとき」23.2%と、夫や両親など身近な人の健康状態の変化や家族の話題によることが多いようだ。

年代別で比較すると、20～40 代では「親が亡くなったとき」「親が高齢になったと感じたとき」の割合が高いが、50 代・60 代以上では「年齢の節目で」お墓について考えるという回答が 25%台と 40 代以下の約２倍になる。

**グラフ③ 自分のお墓について考えるのはどんなとき？＜上位８位＞ 複数回答** (n=1329)

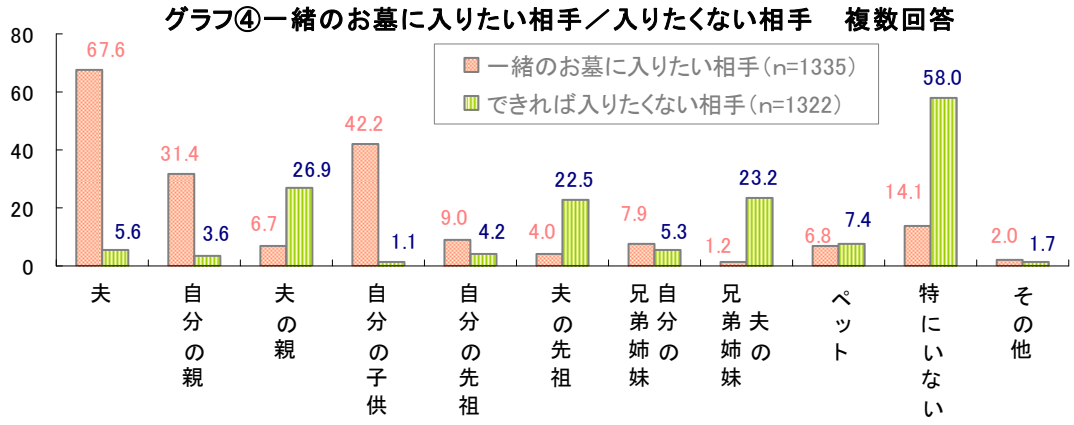


# Press Release

## ◆　一緒のお墓を望むのは「夫」「自分の子供」「自分の親」(グラフ④)

“一緒のお墓に入りたい相手”を選んでもらったところ、全体の 67.6%が「夫」と一緒のお墓に入りたいと回答。世代による夫婦関係を象徴しているのか、「夫」を選んだ人が最も多かったのは 20 代で 84.1%。30 代では７割台、40 代で６割台と徐々に下降し 50 代では 58.1%。子どもが手を離れ、夫婦という単位が再認識される年代であるのか 60 代以上では再び７割台になった。

“一緒のお墓に入りたい相手”の第２位は「自分の子供」42.2%、第３位は「自分の親」31.4%と、自分自身の血縁が中心という結果に。また、20 代・30 代では「自分の子供」が５割前後と高く、「自分の親」も 20～40 代では３割台と、若い世代ほど自分の血縁への意識が強い傾向。




## ◆　できれば一緒のお墓に入りたくないのは、「夫の親」「夫の兄弟姉妹」「夫の先祖」(同・グラフ④)

一方で、できれば一緒に入りたくないという相手は、「特にいない」というミセスが約６割。しかし、残りの４割のミセスのなかには、「夫の親」「夫の兄弟姉妹」「夫の先祖」とは、できれば入りたくないと考える人が、それぞれ 25%前後。年代別では「夫の親」「夫の兄弟姉妹」「夫の先祖」とも 40 代・50 代で多くなっており、それぞれ２割台～３割前後となる。

「その他」と回答した人の「理由」を見ると、「主人の母はいいけれど父親は自分勝手でどうしようもない人だったから無理」(37 歳)、「言いたくないですが、配偶者家族と一緒は避けたいです。あの世でも、気をつかいそうで」(42 歳)、「誰とは言えないが、今一緒にいて精神的に安心しない人」(41 歳) などの意見が挙げられた。

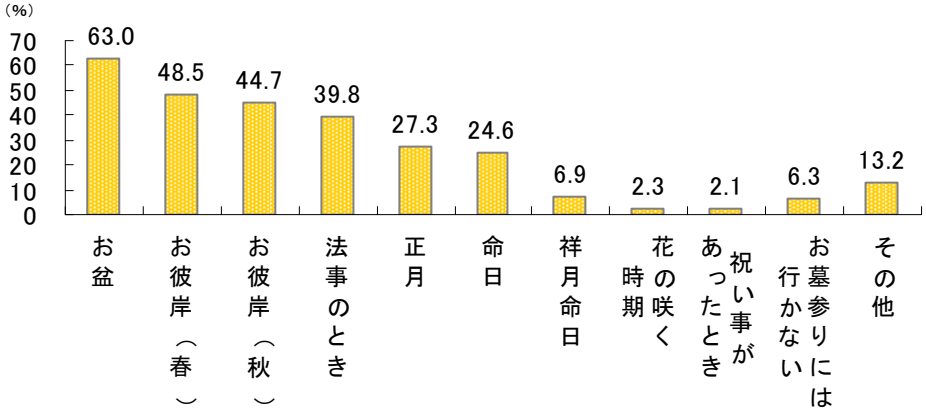
# Press Release

## ◆「お墓参り」よく行く時期は「お盆」63.0%。若い世代は「お彼岸」離れ？（グラフ⑤・⑥）

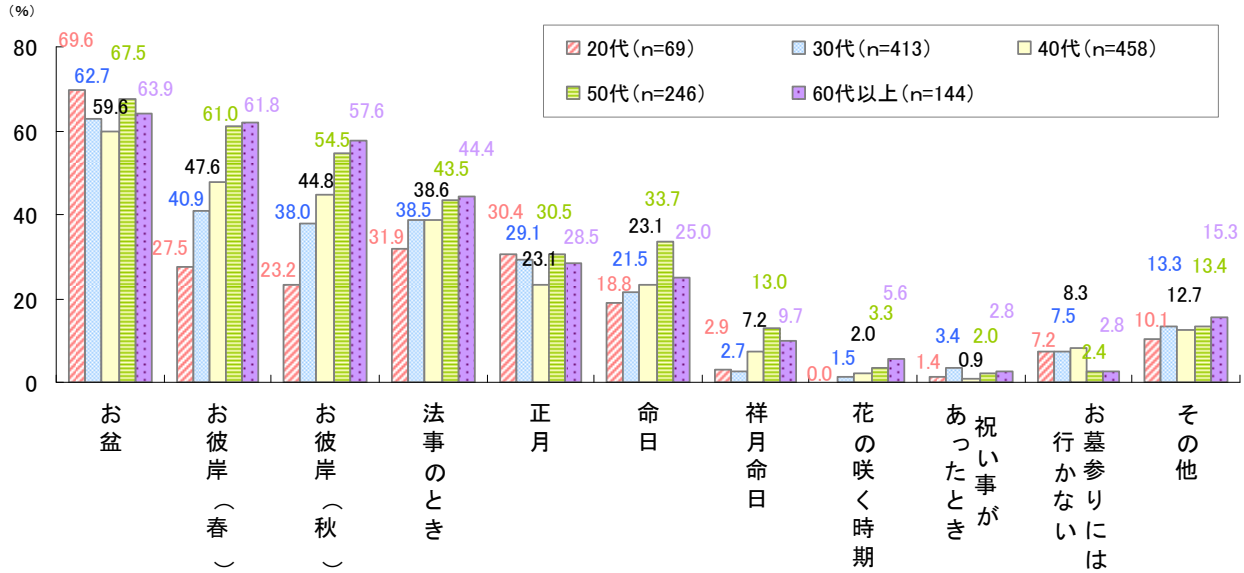
お墓参りによく行く時期は「お盆」が 63.0%でトップ。次いで「お彼岸（春）」48.5%、「お彼岸（秋）」44.7%。また、帰省に合わせてという人も多い。

年代別で比べてみると、「お盆」や「正月」にお墓参りに行く割合は差がみられないが、「お彼岸（春・秋）」では、50 代では 5～6 割であるのに対し、20 代では 2 割台に激減。若い世代での「お彼岸」意識は薄れつつあるようだ。

グラフ⑤ お墓参りによく行くタイミングは？ 複数回答 (n=1330)




グラフ⑥ 【年代別】お墓参りによく行くタイミングは？複数回答



# Press Release

## ◆　ミセスの約４割が「自分の葬儀はやらなくてもいい」との考え　（グラフ⑦）

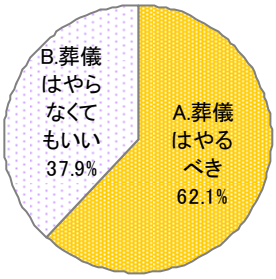
“自分の葬儀”についての気持ちを聞いてみると、「どちらかといえばやらなくてもいい」というミセスが 37.9%。「葬儀はやるべき」という回答は、20 代では 79.7%と８割近いが 30 代以上では、６割前後に下がった。

## ◆　７割以上が「戒名はいらない」、望むのはシンプルな葬儀　（グラフ⑧・⑨）

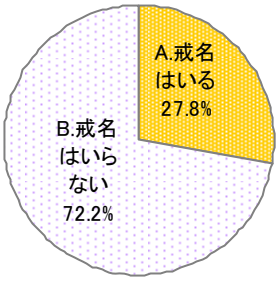
戒名についてのミセスの意向は、「戒名はいらない」72.2%。「葬儀はやるべき」と思う人も、戒名については、58.9%が「戒名はいらない」となった。「葬儀はやらなくてもいい」と思う人では、94.4%と圧倒的である。

遺言については、葬儀への意向に関係なく「書いておきたい」という人が 59.2%と約６割。年代別でみても、どの年代においても６割前後と大差ない結果に。

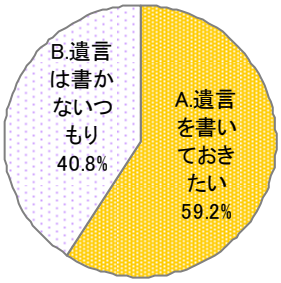
**グラフ⑦　葬儀について**
（n=1321）




**グラフ⑧　戒名について**
（n=1311）




**グラフ⑨　遺言について**
（n=1310）




理想のお葬式を聞くと、「家族や友人など親しい間柄の人が、故人を偲ぶ会。方法は自由。気持ちが大事」（29 歳）、「ごく身近な人たちで簡単にしてもらえれば良いと思います。負担になるほどのお金はかけないでほしい」（41 歳）など、どの年代においても、“シンプルで遺族にお金の負担をかけず、ごく親しい人たちに送ってほしい”という声が目立った。

少子高齢化社会の中で、今後お墓や葬儀などについての意識の変化が進み、そのニーズにあったお墓やお墓参り、葬儀のかたちが求められている。このようなミセスの意識の変化をふまえてのサービスや情報提供が、今後は重要になってくるだろう。

**【回答者のプロフィル】**※すべて既婚女性
**平均年齢：**44.8 歳
**年代**：20 代 5.3%、30 代 31.0%、40 代 34.2%、50 代 18.5%、60 代以上 11.0%
**職業**：専業主婦 60.6%、パート・アルバイト 22.7%、フルタイム勤務 14.1%、その他 2.6%

**【調査データ概要】**
調査方法　：　サンケイリビング新聞が運営する女性向けウェブサイト『えるこみ』のユーザーを対象とした WEB アンケート
調査期間　：　2010 年 2 月 18 日～2 月 21 日（4 日間）
回 答 者　：　既婚女性 1346 人
調査・集計・分析　：　リビングくらしＨＯＷ研究所

**【データに関するお問い合わせ先】**
株式会社リビングくらしＨＯＷ研究所
くらしＨＯＷ研究室　藤田／近藤
TEL:03-5216-9420／FAX:03-5216-9430
info@kurashihow.co.jp